

平成20年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告

(1) 事業の概要

平成20年度は、指定管理者制度と利用料金制度の効用を十分に活用した施設管理をはじめ、新公益法人会計基準の徹底と外部監査による財団運営の透明性の確保を図るとともに、平成20年度末をもって指定管理の期間が満了となる施設について新規提案を行う重要な年度となりました。また、合併により広域化した地域への文化事業の展開や市民の文化活動の支援を行い、中間支援機能の充実を図りました。

事業面では、北遠地域での文化振興、アウトリーチ活動に力を入れました。事業基金を活用して、「日本の笑い“狂言と落語”」（三ヶ日、天竜）、「黒田晋也のクロシックコンサート」（天竜）、「宮川彬良&大阪市音楽団コンサート&合同バンドクリニック」（天竜、浜北）、「天竜産業観光まつり・出張プロムナードコンサート」、「天竜・龍山地区オルガン体験授業」を開催したほか、市民の文化活動に対する中間支援機能として「はままつ文化サポート事業」を創設し、助成金だけでなく、プレスリリースの協力、財団のホームページやポータルサイト「はまかるドットネット」への記載、チラシ・ポスターの配布協力、アクトシティチケットセンターでのチケット販売など広報活動・販売促進の支援も行いました。

浜松市からの受託事業や負担金事業は、第3回こどもミュージカル「この星に生まれて」の開催、第7回浜松国際ピアノコンクールの開催準備など大型事業の運営があり、「音楽のまち・浜松」の効果的な発信に努めました。

所管施設の附帯事業におきましては、浜松市楽器博物館、浜松科学館、木下恵介記念館等で移動博物館、出張授業や上映会などを広域的に開催したり、文芸館では浜松市東区が主催した俳句フォーラムに出展したりするなど、市域全体の文化向上に貢献するとともに、所管施設への誘客も図ってまいりました。

また、「第7回浜松国際ピアノコンクール」や「浜松モザイカルチャー世界博2009」の開催、静岡空港の開港が目前に迫り、「コンベンション都市・浜松」を国内外にさらにアピールするため、財団法人浜松観光コンベンションビューローやオークラホテルグループとの連携のもと、ランドマークであるアクトシティ浜松へのコンベンション誘致活動を強化いたしました。都市圏の学術会議事務局のみならず、近隣地域の商工会議所、大学の研究室などへもホールセール活動を活発に展開いたしました。平成20年度後半からの景気低迷にもかかわらず、課題であったアクトシティ浜松展示イベントホールの稼働率が向上したことは、これまでのセールス活動の成果が現れ始めているものと考えます。

所管施設の管理におきましては、浜松市内の11の公共施設を指定管理しました。このうち、木下恵介記念館については、施設が入居していたフォルテの閉鎖に伴って9月で休館しました。浜松市から受けた指定管理料は合わせて1,657,826千円、利用料金収入（利用料金制度導入は7施設）は合わせて818,371千円でした。

観覧施設等の利用者数につきましては、平日の附帯事業に工夫を凝らした浜松こども館で、前年に引き続き目標である21万人を大幅に超えた一方で、科学館など意欲的な事業展開にもかかわらず来館者が伸びなかった施設もあり、今後の課題となりました。前年度に試行された「ぐるっとパス」が平成20年度にはなかったことも影響しています。

なお、平成20年度末で指定管理の期間が満了となるクリエート浜松、浜松こども館、浜松市天竜壬生ホール、浜松市浜北文化センター及び浜松市森岡の家について、平成21年度からの5年間に係る指定管理提案を行い、引き続き指定管理者となりました。また、浜松市なゆた・浜北については平成20年度末をもって財団の指定管理を終了し、施設の管理会社である株式会社なゆた浜北に引き継ぎました。

ア 芸術文化活動の企画、運営及び提供

例年の事業展開に加え、浜松市内の文化団体や企業と共催で事業を開催するとともに、年度途中でも市民の文化振興に有益な事業と判断した場合は可能な限り実施できるよう積極的に取り組みました。

コンサートでは、「西本智実指揮 新世界ツアー2008 with モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団」や「ウィーン交響楽団ヨハンシュトラウスアンサンブルニューイヤーコンサート2009」を開催し、トップレベルの演奏を提供しました。オペラでは、イタリア・スポレート歌劇場「シンデレラ」、ローザンヌオペラ「カルメン」の2公演を、ミュージカルでは「ファミリーミュージカル しまじろうとゆうえんちへいこう」、「わらび座ミュージカル 火の鳥～鳳凰編～」を開催しました。

また、毎年恒例の松竹大歌舞伎公演では、市川段四郎や市川亀治郎等が「弁天娘女男白浪」などを熱演しました。

その他、音大生に公演の場を提供した「2008 浜松・夏・音大生音楽祭」や浜松特別企画として参加者が楽器を持ち込みアーティストとの合同演奏を行った「浜さ知らズ大オーケスト

ラ)、企画段階から市内福祉団体と協力して開催した「飯田みち代ハートフルコンサート」など、当財団ならではの企画も好評を博しました。

イ 芸術文化活動の支援及び交流の促進

平成20年度も、市民文化団体と連携して「浜松市民文化フェスティバル」や「浜松市芸術祭はままつ演劇・人形劇フェスティバル」を開催するとともに、財団の事業に賛同支援いただけるボランティアスタッフの募集・育成を行いました。

新市域の文化振興を図る広域事業としては、「日本の笑い“狂言と落語”」を三ヶ日文化ホールと天竜壬生ホールで、「黒田晋也のクロシックコンサート」を天竜壬生ホールで開催しました。浜北文化センターで開催した「宮川彬良&大阪市音楽団コンサート」については、それに先立って地元合同バンドのためのクリニック「宮川彬良&大阪市音楽団コンサート&合同バンドクリニック」を天竜壬生ホールにおいて行い、一流のアーティストから指導やアドバイスを受ける機会を浜北及び天竜地域の学生・指導者に提供しました。

前年度から引き続き企画、開催した吹奏楽作曲事業「バンド維新」では、外山雄三、前田憲男等の著名な作曲家による吹奏楽のための委嘱新作を市内中学・高校の吹奏楽部が「全曲世界初演」するとともに、作曲家自身を招いて公開レクチャー・練習を行いました。こうした活動が、今年もバンドジャーナル等の雑誌やマスコミに今までにない企画として多数取り上げられ、全国へ浜松をPRすることができました。

また、「はままつ文化サポート事業」の創設により、助成金等による中間支援機能の充実を図りました。

ウ 文化振興を担う人材の育成

「ジュニアオーケストラ浜松」及び「ジュニアクワイア浜松」の運営を通じて、将来を担う子供たちの育成を図りました。2回の定期演奏会だけでなく、公募で選ばれたこどもたちが熱演した「第3回こどもミュージカル“この星に生まれて”」においてジュニアオーケストラ浜松がオーケストラピットに入り生演奏で参加したり、ジュニアクワイア浜松が昭和女子大学で開催された「2008こどもコーラス・フェスティバル」に参加したりするなど、市民や市内外の他団体とも交流も深めました。また、アクトシティ音楽院事業では、世界で活躍する音楽家の養成を目指す「アカデミーコース(3事業)」から市民レベルの音楽文化の担い手を育てる「コミュニティコース(10事業)」まで幅広く人材の育成を行いました。

エ 芸術文化に関する調査研究及び情報提供

財団の主催事業を中心に年間約100公演の優先予約販売を取り扱う有料会員組織であるアクトシティ浜松友の会『ビバーチェクラブ』には約6,000名が登録、会員には毎月のDMや隔月発行のビバーチェクラブニュースにより各種公演の情報提供を実施し、主にアクトシティ浜松で開催される芸術文化事業を支える組織として認知されています。

また、浜松市及び民間協力事業者と協働で開設した浜松市芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」は、主に市内で開催される芸術文化活動の告知媒体としての機能のほか、市内で活動する文化団体に関する情報、浜松で活動したいアーティストの情報、浜松市内の文化施設の情報など、芸術文化に関する情報交流の拠点サイトとして活用されています。

オ 地域社会の活性化に資する事業

5月の浜松まつりに合わせた「アクトでやらまいか！ 浜松まつり」、8月の「納涼まつり」では、アクトシティ連絡会の一員として浜松の特徴を生かした企画の提案と運営に関わり、アクトシティでの賑わいを創出しました。地元企業の世界の縁日への出店参加や周辺地域の様々な郷土伝統芸能、市民アート展覧会、はっぴ野郎・はっぴ姉御コンテストなどの実施により、地域文化のアピールと共に、地域社会の活性化を図りました。アクトシティ連絡会では、大ホール前の市民ロビーを利用した「市民ロビーコンサート」も3回開催するなど、アクトシティ内のオープンスペースを活用しました。

また、アクトシティ浜松管理課では、アクトシティの施設全体の有効活用による周辺地域の活性化を図るため、近隣の商工会議所や医療機関など各種団体をはじめ、関西エリアの学会事務局や企業などを訪ね、アクトシティ及び浜松市のPR活動、コンベンション誘致活動を実施いたしました。

カ 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力

第7回浜松国際ピアノコンクールの出場者募集の告知のため、国内外の音楽関係機関へ実施要項を発送し、海外メディアも含む新聞及び雑誌へ広告掲載を行いました。10月にはコンクールの公式ホームページをリニューアルオープンし、静岡大学との連携事業として映像配信サイトを開設いたしました。そのほか、アクトシティ浜松への大型壁面広告の掲出やイベントでのブース出展など積極的に開催PRをいたしました。平成21年2月1日から3月31日まで出場申し込みの受付を行い、25か

国1地域から228名の申し込みがありました。

また、第13回浜松吹奏楽大会や市制施行97周年記念式典、パイプオルガンミニコンサートなどの恒例となった芸術文化事業のほか、市と協力して「北区ホームタウンコンサート」、「浜松市文化振興ビジョンシンポジウム」といった新たな事業も開催し、芸術文化の振興に寄与いたしました。

キ 公の施設の管理運営及び附帯事業

(ア) アクトシティ浜松

過去に浜松国際ピアノコンクールの開催年度に利用料金収入が7億円を超えたことがありましたが、平成20年度は浜松国際ピアノコンクール開催年度ではないにもかかわらず、7億円を上回りました。大規模な展示会の開催により展示イベントホールの稼働率が向上したこと、値下げが認知されてきた地下駐車場の稼働率が回復してきたことなどが要因として考えられます。今後も継続的な営業活動とコンベンション誘致活動を行い、収入の増加を目指します。

設備管理面では、不要照明の消灯や間引き点灯などの効率的な設備運転や電球・器具の省エネタイプへの取り替え等により光熱水費の削減で成果が得られました。Dゾーンの空調運転を制御する中央監視装置の更新などによる省エネルギーの推進も行いました。また、官民共同事業体であるアクトタワー管理会社と協力して、民間部分を含むアクトシティ全体で契約をしている電気料金の基本料金の値下げを実現するとともに、共有設備の保守契約等の見直しにより管理委託費も削減しました。

(イ) 浜松市楽器博物館

厳しい社会情勢のため9月、10月は若干の入館者の減少が見られたものの、11月以降は回復し、目標の86,000人を上回る90,000人あまりのお客様に入館者していただきました。市外はもとより市内からの入館者も増加しましたので、PRチラシの配布や地元マスコミへの露出の強化などによる地道な広報周知活動の成果が出てきたものと考えられます。また、全国への知名度も昨年度以上に大きくなっていると考えられます。

附帯事業におきましては、北京オリンピックや日本・ブラジル交流年を記念した特別展と、多くの愛好者人口をもつ大正琴をテーマとした企画展が人気を呼びました。レクチャーコンサートにおいては、アフリカ、アイルランド、インドなど世界の音楽文化を紹介でき、好評でした。アウトリーチ活動である小学校への移動博物館は7校で実施し、小学生から大変喜ばれました。調査活動においては、イン

ドネシア、ジャワ島を中心としたガムランの調査を実施し、インドネシア国立芸術大学の協力も得て、貴重な映像資料を収集し、知的財産を蓄積できました。博物館コレクションシリーズのCDは朝日新聞などで絶賛され、多くの音楽ファンに古楽の素晴らしさをアピールできました。

(ウ) クリエイト浜松（中部公民館及び文化コミュニティセンター）

クリエート浜松の利用状況につきましては、前年度に比較して利用率、利用数、入場者数が減少していますが、利用料金収入は約 118 万円の増額となっております。この要因としては、主に会議室、講座室などを営業、販売、商品説明会などに利用される企業や団体のお客様が増えたことにより、営利加算のケースが多くなったことが考えられます。

附帯事業の中部公民館事業については、浜松ヒューマンセミナー、生きがいつくり講座「クリエート大学」、三遠南信文化交流講座などの事業を開催して、市民へ生涯学習の機会を提供しました。

また、子どもを対象とした地域子ども育成事業、「抹茶教室」や「料理教室」などのこども講座、お話こども広場などを開催して、地域の児童青少年健全育成に貢献しました。

地域住民の親睦と交流を深めるために、また、公民館で活躍する文化団体と地域住民との交流の機会を提供するために、夏まつりおよび中部公民館まつりを開催しました。

(エ) 浜松科学館

プラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」「宇宙エレベータ」が、ロコミで広まり、幅広い年代の方にプラネタリウムを楽しんでいただくことができました。プラネタリウム「ときめきら」を会場として開催した、ジャズヴォーカリスト鈴木重子のコンサートは、新たな試みとして話題となりました。

また、特別展「脳展～もともと身近で神秘的な世界～」については、南方熊楠の脳を展示するなど学術的に貴重なものでしたが、親子連れの来場者には内容がやや難しく、来場者数を見込んだとおりには伸ばすことができませんでした。

一方、科学館が行う最大の附帯事業「第13回おや！なぜ？横丁」では、ものづくりのまち「浜松」を代表する企業、それを支える大学、高校、ボランティア等が44のブースを出展し、延べ8,013名の来館者に科学のおもしろさ、ものづくりの楽しさを味わっていただきました。

アウトリーチ活動である出張授業「ゴーゴーおもしろサイエンス」では、市内15の小学校に出かけ、科学体験に対する意欲付けを行いました。

(オ) 浜松こども館

平成 20 年度は、目標である 21 万人を上回り、221,402 人の入館者を迎えることができました。

平日の事業として、継続している「ハイハイくらぶ」や「はじめてのことばあそび」、「赤ちゃんニコニコマッサージ」、特に午後に開催した妊婦や子育て中の方々にリラックスしていただくための「やさしいヨーガ」などが好評でした。これらは、安心して、いつでも参加できるものとして定着してきており、リピーター増につながっています。また、お母さん同士のおしゃべり、交流の場として行っている「赤ちゃん大集合」も、気軽に足を運ぶことができ、ゆったりとした時間を持つことができる事業となっています。

さらに、「プレイ倶楽部」や「アート倶楽部」、日常遊び（おしごと体験や伝承遊び、ホールでの体を使った遊び）など、常連の子どもたちや近隣の小学生がいつ来ても遊べる環境づくりに努めました。

このような環境をつくるために、ボランティアや運営アドバイザーなど市民や専門家の方々の協力や活動を得ることができ、「地域のみinnで創るこども館」の大きな力となりました。

(カ) 浜松文芸館

10 月から平成 21 年 3 月まで、特別展「生誕百年記念 藤枝静男展 ～すごい作家が浜松に存在た～」を開催しました。11 月 16 日には、宮内淳子帝塚山学院大学教授を招いての講演会を、浜松文芸館の講座室において開催しました。この「藤枝静男展」を通じて浜松文芸館と研究者の繋がりができたことは大きな収穫となりました。浜松に定住した作家藤枝静男はこれからも研究対象として広がりを見せるものと考えられます。今後の浜松文芸館での資料整理、収集にも大きな役割りが期待されています。

浜松文芸館では、現在約 50 の文芸団体がここを拠点と活動しています。こうした俳句、短歌、読書会などの市民団体とのコラボレーション企画が今後の課題と考え、企画展の開催案を検討した結果、「古くて新しい掛軸展」といった事業を開催できる運びとなりました。

また、資料整理では「作家別」の整理を進めています。今後は研究者への対応もより必要となるものと思われます。

平成 20 年度は、浜松市東区で進められている「俳句の里づくり」とも協力体制をつくり、「十湖賞表彰式」では移動文芸館展示を設置しました。

(キ) 木下恵介記念館

平成 20 年度の木下恵介記念館は、浜松駅前フォルテの閉鎖によって、4月から9月末までの開館となりました。この間、毎月開催されたDVD上映会では、休館が近づくにつれ入場者が増加する傾向がありました。また、浜松市内の公民館を中心に開催されてきた出張上映会は、木下恵介記念館が休館となった10月以降も開催し、好評を得ました。

木下恵介顕彰事業として開催した「二十四の瞳へのオマージュ・ショートフィルムコンテスト」では全国からの作品応募があり、松竹株式会社をはじめ専門家の審査員によって奨励賞が選考されました。2月7日に開催されたこの表彰式では「あゝ人生に歌あり 木下忠司作品コンサート」を同時開催し、アクトシティ浜松中ホールが満席となるだけでなく、映像と音声の中継によるパブリックビュー会場も設置して多くのお客様に楽しんでいただきました。

資料整理では、将来の保存性に配慮し、収蔵している全ポスターをデジタル撮影して、展示用複製ポスターを作製しました。

(ク) 浜松市天竜壬生ホール

開館して6年が経ちましたので、経年劣化した各種バッテリーの交換、自家発電機の燃料交換等いざというときにお客様のご迷惑にならないよう、積極的に修理・修繕に努めました。

事業面では、北遠地域の文化振興を目的とし、「日本の笑い“狂言と落語”」、「黒田晋也のクロシツクコンサート」を天竜壬生ホールにて入場料無料で開催し、多くの市民に足を運んでいただきました。また、浜北文化センターで開催した「宮川彬良&大阪市音楽団コンサート」に天竜・浜北地域の学生による合同バンドが出演しましたが、このバンドのための公開クリニックを天竜壬生ホールで行い、地域の学生、指導者に好評を得ました。

施設管理面では、車椅子とAEDを設置し、緊急の場合に備えました。

(ケ) 浜松市浜北文化センター

浜松市浜北文化センターの利用状況は、前年度と比較して、大ホール、小ホールともに稼働率が大幅に向上しています。浜松市の公共施設予約システム「まつぼっくり」のシステムが1月に改修されましたので、今後はこのシステムを活用しながら、施設の情報を広め、稼働率の維持、向上に努めることが課題となっております。

事業については、開館当初からの継続事業「第78回浜北文化講演会」や「第26回浜北寄席」を開催し、市民の生涯学習の場、伝統芸術文化鑑賞の場として好評を得たほか、「世良公則アコースティ

ックソロライブツアー」「名画鑑賞会」などをおこない、市民に気軽に足を運んでいただけるような催しを開催しました。

(コ) 浜松市森岡の家

浜松市森岡の家の利用状況は、前年度より稼働率、利用人数とも増加しました。

森岡の家には、松やイチョウなどの古木、巨木が多くあります。落葉や倒木によって利用者及び近隣の民家に影響が出ないように、植栽の剪定、伐採を行うなど、環境の整備に努めました。

(サ) 浜松市なゆた・浜北

今年度は施設の利用状況はほぼ横ばいでしたが、市民ギャラリーで大規模な展示会等が開催されたため、利用人数が増加しました。

事業については、前年度に引き続き「夏休み親子映画まつり」や「旅する絵本カーニバル」といった親子と一緒に楽しめる事業をはじめ、一般市民が誰でも参加できる「なゆたセミナー」や「ふるさと楽習」といった講演事業、「らくらくパソコン講座」や「なゆた・浜北料理講座」「ビーズアクセサリー創作体験講座」などの講座事業等多彩な事業を実施し、生涯学習の場として大変好評を得ました。

ク 埋蔵文化財の発掘及び調査

年度当初予定されていた遺跡の発掘及び調査のほか上新屋遺跡・丸塚遺跡等年度途中に追加受託したものを含め、16遺跡の発掘調査や整理作業、報告書の作成を行いました。

(2) 会議に関する事項

ア 理事会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第15号	20. 6. 25	平成19年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告及び会計報告について
第16号	20. 6. 25	財団法人浜松市文化振興財団評議員の改選について
第17号	20. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第18号	20. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第19号	20. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第20号	20. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第21号	20. 12. 22	浜松市立中部公民館及び浜松市文化コミュニティセンター利用料金規程の一部改正について
第22号	20. 12. 22	浜松文芸館及び木下恵介記念館利用料金規程の一部改正について
第23号	20. 12. 22	浜松科学館利用料金規程の一部改正について
第1号	21. 3. 23	平成20年度財団法人浜松市文化振興財団補正予算について
第2号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団組織規程の一部改正について
第3号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団所管施設業務規程の一部改正について
第4号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団公印規程の一部改正について
第5号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第6号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第7号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第8号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団情報公開規程の一部改正について
第9号	21. 3. 23	アクトシティ浜松利用料金規程の一部改正について
第10号	21. 3. 23	浜松市楽器博物館利用料金規程の一部改正について
第11号	21. 3. 23	浜松市立中部公民館及び浜松市文化コミュニティセンター利用料金規程の一部改正について
第12号	21. 3. 23	浜松文芸館及び木下恵介記念館利用料金規程の一部改正について
第13号	21. 3. 23	浜松科学館利用料金規程の一部改正について
第14号	21. 3. 23	浜松こども館利用料金規程の一部改正について

第15号	21. 3. 23	浜松市天竜壬生ホール利用料金規程の制定について
第16号	21. 3. 23	浜松市浜北文化センター利用料金規程の制定について
第17号	21. 3. 23	浜松市森岡の家利用料金規程の制定について
第18号	21. 3. 23	平成21年度財団法人浜松市文化振興財団事業計画について
第19号	21. 3. 23	平成21年度財団法人浜松市文化振興財団予算について
第20号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第21号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団理事長・副理事長・常務理事の互選について

イ 評議員会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第2号	20. 12. 22	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第1号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第2号	21. 3. 23	財団法人浜松市文化振興財団監事の選任について

(3) 役員に関する事項

ア 役員（平成21年3月31日現在）

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	庄田 武	評議員	石村和清
副理事長	丹羽稔夫	評議員	中山正邦
常務理事	齋藤慎五	評議員	花井喜一
理事	御室健一郎	評議員	武田信孝
理事	伊藤修二	評議員	澤野幸廣
理事	河合弘隆	評議員	河嶋英典
理事	山内啓司	評議員	大石好孝
理事	鈴木敬彦	評議員	池町克徳
理事	山本博文	評議員	鈴木理久
理事	本多美智子	評議員	川井孝啓
理事	片田聖子	評議員	横原 幸
理事	杉田 豊	評議員	高松良幸
理事	須藤京子	評議員	西田かほる
理事	飯田彰一	評議員	石田美枝子
監事	大石清美		
監事	鈴木不二		

イ 役員の変動

(ア) 就任

役職名	氏名	就任日	役職名	氏名	就任日
理事	本多美智子	20. 12. 22	評議員	中山正邦	20. 6. 25
			評議員	武田信孝	20. 6. 25
			評議員	河嶋英典	20. 12. 22

(イ) 辞任（任期満了も含む）

役職名	氏名	辞任日	役職名	氏名	辞任日
理事	岡本弘美	20. 12. 22	評議員	鈴木富士男	20. 6. 25
理事	伊藤修二	21. 3. 31	評議員	後藤 明	20. 6. 25
理事	河合弘隆	21. 3. 31	評議員	大澤照幸	20. 12. 22
理事	杉田 豊	21. 3. 31	評議員	池町克徳	21. 3. 31
理事	須藤京子	21. 3. 31	評議員	石田美枝子	21. 3. 31
理事	鈴木敬彦	21. 3. 31	評議員	石村和清	21. 3. 31
理事	片田聖子	21. 3. 31	評議員	大石好孝	21. 3. 31
理事	本多美智子	21. 3. 31	評議員	川井孝啓	21. 3. 31
理事	御室健一郎	21. 3. 31	評議員	河嶋英典	21. 3. 31
理事	山内啓司	21. 3. 31	評議員	澤野幸廣	21. 3. 31
理事	山本博文	21. 3. 31	評議員	鈴木理久	21. 3. 31
理事	丹羽稔夫	21. 3. 31	評議員	高松良幸	21. 3. 31
理事	飯田彰一	21. 3. 31	評議員	花井喜一	21. 3. 31
理事	庄田 武	21. 3. 31	評議員	中山正邦	21. 3. 31
理事	齋藤慎五	21. 3. 31	評議員	西田かほる	21. 3. 31
監事	大石清美	21. 3. 31	評議員	武田信孝	21. 3. 31
監事	鈴木不二	21. 3. 31	評議員	横原 幸	21. 3. 31

(4) 職員に関する事項

区 分	人数()は兼務		備 考
	平成20年3月31日現在	平成21年3月31日現在	
事務局長	—	1	事務員1(うち浜松市職員1)
総務部長兼事業部長	1	—	
事務局次長	—	1	事務員1
総務課長	(1)	1	事務員1
主幹	2	2	事務員2
主任	3	2	事務員2
係員	4	3	嘱託員3
総務課経営室長	—	(1)	事務局長兼務
主幹	—	2	事務員2
事業課長	2	1	事務員1
主幹	1	2	事務員2
主任	6	3	事務員3
係員	16	8	事務員4 嘱託員4
音楽推進課長	—	(1)	楽器博物館長兼務
主幹	—	2	事務員2
係員	—	5	嘱託員5
アクトシティ浜松管理課長	1	(1)	事務局長兼務
主幹	1	2	事務員2
主任	3	1	事務員1
係員	8	8	事務員4 嘱託員4
楽器博物館 館長	1	1	事務員1
主幹	1	1	事務員1
係員	8	7	事務員1 嘱託員6
クリエート浜松 館長	1	1	事務員1(うち浜松市職員1)
主幹	2	1	事務員1
主任	0	1	事務員1
係員	6	5	事務員1 嘱託員4
科学館 館長	1	1	嘱託員1
主幹	2	3	事務員3(うち浜松市職員2)
主任	1	1	事務員1

係員	19	17	嘱託員17
こども館 館長	1	1	嘱託員1
主幹	1	1	事務員1
主任	1	1	事務員1
係員	14	14	事務員2 嘱託員12
文芸館 館長	1	(1)	事務局次長兼務
係員	2	2	嘱託員2
木下恵介記念館 館長	1	(1)	事務局次長兼務
係員	1	1	嘱託員1
天竜壬生ホール 館長	(1)	(1)	事務局次長兼務
係員	1	1	嘱託員1
浜北文化センター、 兼森岡の家、 なゆた・浜北 館長	1	1	嘱託員1
係員	2	2	事務員2
計	116	107	
会計責任者	(1)	(1)	事務局長
出納員	(12)	(12)	課長及びアクトシティを除く館長

※平成20年度は部（総務部及び事業部）を廃止。

※「事業課」平成19年度欄は、事業部2課（事業企画課及び文化育成課）を合わせた人数。

※平成20年度から事務局長を置く。